

書 評

研修医のための整形外科診療「これだけは！」

高橋正明(編)

〔評者〕高岸憲二(群馬大教授・整形外科学)

厚生労働省が報告している国民生活基礎調査の有訴者率では「腰痛」および「肩こり」が男女ともに1位および2位を占めていますし、女性では3位に「手足の関節が痛む」が入っていることわかるように、外来診療では、この種の訴えを持った多くの患者が整形外科外来を訪れています。また、救急外来では救急車で運ばれてくる外傷患者の9割以上が整形外科関連という病院もあります。平成16年に始まった卒後臨床研修システムでは整形外科は残念ながら必修科には選ばれませんでした。一般病院では、整形外科医がかかわる機会が数多くあります。多くの研修医が一般病院で研修を受けるようになり、指導医が十分でない病院でどのようにして彼らを一定のレベルまで引き上げることができるか、また、研修医向けの良い整形外科入門書がないかと思っておりました。

このたび医学書院から『研修医のための整形外科診療「これだけは！」』が出版されました。この本は雑誌『臨床整形外科』に2007年1月から2008年6月までの1年

半、全18回にわたり掲載された連載企画「臨床研修医のための整形外科」を1冊の書籍にまとめたものです。

編者の高橋正明先生は慶應義塾大学医学部整形外科医局に属され、私と同じ肩関節外科を専門とされており、学会や症例検討会での先生の発言を聞いておりますと基本的に忠実で、ポイントを押さえて的確であることから、素晴らしい先生と常々感じておりました。雑誌『臨床整形外科』の編集委員会でこの連載企画が持ち上がった折、私は高橋先生が慶應義塾大学医学部付属病院で「若手医師」を指導する「卒訓担当」医師を務め、若手医師から大変慕われていたことを知っておりましたので彼なら間違いないと大賛成でした。

連載された企画も大変好評であり、このたび1冊の書籍ができあがりました。診断に至るフローチャート、臨床研修Q&Aやサイドメモ(問診で確認する内容)、研修での評価項目など随所に日常診療に役立つ工夫が施されています。

これから整形外科を学ぶにあた



り、研修医がスタンダードな本を購入し、勉強していかなければならないことは言うまでもありませんが、本書によって一般病院で日常行われている整形外科医の診療像が把握でき、さらに実践に役立てることができることを確信しております。研修医の方は外来、当直、手術室などでぜひ本書を常時携帯して一日も早く整形外科医として独り立ちしていただければ幸いです。

B5 頁212 2009年
定価5,880円(本体5,600円+税5%)
医学書院 刊